

2019年10月28日

あおぞら投信株式会社

「三つ子から 学び始めて 数十年 まだまだ手習い 始める勇気か」

人はいったい何時まで学ぶことができるのでしょうか。学びの始まりは「三つ子の魂百まで」と言われる通り、人生の最初は、家族に囲まれて、人の一生を決めるほどに大切な時間から始まります。この時間は保育という、自ら学ぶというより守られて学ぶ時ではありますが、「幼児教育」という家族とそれ以外の人との接点がスタートする時でもあります。1人で歩き始めると、自然とですが自分の身を守ることも学んでいくのです。

次の「学校教育」は、広い意味での学ぶ時間です。『真似ること』が『学ぶこと』の始まりです。様々な知識を身に付けるということも大切ですが、多くの初めての経験を積み重ねていくことで、自己の形成が進むのです。1人での思索の時間を持ったり、友人らと人間関係を作ったり、またそれに悩んだり、という複雑なことを身に付けていくのです。学校教育は小学校、中学校の義務教育を基礎に、高等学校までの期間であり、そこでその人となりを作り上げていくのです。その後の大学からは既に社会へと出るためのゾーンであり、社会人も含めての場となります。専門性を身に付けるためにここはオープンな場となります。そして3つめの教育は「生涯教育」です。大学に限らず、何かを学ぶことは常に可能なのです。四十の手習いから五十、六十と何歳になっても学びを得ることはその人自身の選択です。これからの時代は、情報も与えられるものからオンディマンドへとさらに変化していくでしょう。求めるものはひとりひとり違うことが当たり前になります。従って学ぶことも異なるわけで、終わりのない生涯学び続ける場が広がっているのです。新しいことを学ぶことで自分の見方が広がり、また人の輪を拡げる中で年月を経ていくことが成長に繋がるのだと考えます。

柳谷俊郎

<ご参考>「論語（ろんご）」～人生を語った言葉～

子曰く
「吾 十有五にして学に志し（志学） 三十にして立ち（而立） 四十にして惑わず（不惑）
五十にして天命を知る（知命） 六十にして耳順い（耳順） 七十にして心の欲する所に従いて矩のりを踰えず（従心）」

～言葉の意味～

年齢	言葉	意味
15歳	志学（しがく）	学問で身を立てようと志を立てた。
30歳	而立（じりつ）	自分の立場ができた。
40歳	不惑（ふわく）	自分の生き方に迷うことがなくなった。
50歳	知命（ちめい）	天から与えられた自らの使命を知った。
60歳	耳順（じじゅん）	人の意見に耳を傾けることができるようになった。
70歳	従心（じゅうしん）	自分のしたいことをしても、調和が保てるようになった。

～「論語」の基となった思想家 孔子～



孔子
(B.C.552年～B.C.479年)

日本人の道徳規範や倫理観と深く関わりのあるものとして、中国から伝わった「論語（ろんご）」の教えのもとになった人物。春秋時代の中国の思想家、哲学者でもある儒教の開祖。儒教は中国思想の根幹となり、後世にも大きな影響を及ぼしている。

出所：各種情報を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>